

自動車・同部品・タイヤ

1. 評価対象企業（22 社）

【自動車メーカー】（10 社）

日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機

【自動車部品メーカー】（8 社）

トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、スタンレー電気（再評価）、アイシン、小糸製作所、豊田合成、ニフコ

【タイヤメーカー】（4 社）

横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	1	15
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	35
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	20
計		10	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 26 名（所属先 21 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新たに企業を加えたほか、**ESG 関連**および**自主的な情報開示**を中心に項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 66.1 点（昨年度同点）、総合評価点の標準偏差は 7.4 点（昨年度 6.9 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、**タイヤメーカー**（4 社）72.8 点（昨年度 70.9 点）、**自動車メーカー**（10 社）65.7 点（昨年度 66.2 点）、**自動車部品メーカー**（8 社）63.3 点（昨年度 63.2 点）となり、**タイヤメーカー**が総合評価平均点を伸ばした。個社で見ると、横浜ゴム（+5.4 点）、スズキ（+5.0 点）、いすゞ自動車（+4.0 点）の総合評価点の上昇が目立った。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 67%（昨年度 69%）、**説明会等**が 66%（昨年度 72%）、**フェア・ディスクロージャー**が 79%（昨年度 80%）、**ESG 関連**が 65%（昨年度 63%）、**自主的な情報開示**が 65%（昨年度 62%）となった。

- ④ 評価項目（全 10 項目）について見ると、80%以上となったものはなく、次のフェア・ディスクロージャーの項目が最も高い水準となった。なお、本年度において、同項目の内容を見直している。

・「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 79%〔昨年度 80%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：60%台 1 社・70%台 9 社・80%台 11 社・90%台 1 社）

- ⑤ ESG 関連の 4 項目は次のとおりとなった。本年度において、4 項目全ての内容を大幅に見直しているため、昨年度比は示していない。なお、(c)の平均得点率は、全 10 項目中で最も低い水準となり、評価対象企業間の得点差が大きかった。

- (a)「環境負荷低減に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。また、その進捗状況、成果が十分説明されていますか」（平均得点率 69%）（得点率：60%台 13 社・70%台 8 社・80%台 1 社）
- (b)「キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針が示されていますか」（平均得点率 66%）（得点率：40%台 3 社・50%台 3 社・60%台 6 社・70%台 8 社・80%台 2 社）
- (c)「ESG 関連のイベントを開催していますか。また、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 46%）（得点率：20%台 1 社・30%台 4 社・40%台 10 社・50%台 4 社・60%台 2 社・80%台 1 社）
- (d)「人的資本に関する情報（ダイバーシティや従業員エンゲージメントなど）、及び、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を定量的・積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか」（平均得点率 69%）（得点率：50%台 2 社・60%台 8 社・70%台 12 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 プリヂストン（ディスクロージャー優良企業〔4 回連続 4 回目〕、総合評価点 76.2 点〔昨年度比+0.8 点〕）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（得点率〈以下省略〉90%）、ESG 関連（77%）が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等（79%）、自主的情報開示（74%）が第 4 位、説明会等が第 7 位（69%）となった。昨年度に比べ、説明会等を除く 4 分野において、得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が同得点第 3 位になり、「経営陣の IR 姿勢」も第 4 位となった。これらに関連して、経営トップの株式市場への意識が高く、経営方針や実態等を市場に伝える努力をしているとの声があったほか、IR 資料やトップメッセージの内容を評価する声も寄せられた。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること、また、企業分析に必要な情報が得られること」は第 7 位となった。これに関連して、説明会資料において、事業別、地域別などの定量情報が充実していることを評価する声、説明会等での説明は十分であるとの声があった。なお、タイヤの販売本数に関する開示のさらなる充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、最も高い評価となった。これに関連して、日英両言語での説明会動画の配信を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、4 項目のうち 3 項目が最も高い評価（同得点第 1 位を含む。）となった。これらに関連して、ESG 関連の開示内容が充実しているとの声があった。「ESG 関連のイベントを開催していること。また、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」は第 4 位であった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「納得性の高い中長期戦略を公表していること。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていること」が第 3 位となった。「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 12 位となったが、昨年度に比べ、

得点率がやや改善した。有益なイベントとして、経営トップとのスモールミーティングや、技術説明会などを挙げる声があった。なお、欧米事業に関する理解を深める機会を望む声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 本田技研工業（総合評価点 76.1 点〔昨年度比+1.9 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第1位（82%）、フェア・ディスクロージャー（86%）、ESG 関連（72%）が第2位、説明会等（72%）、自主的情報開示（77%）が第3位となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等の得点率の改善が大きかった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」が共に最も高い評価（同得点第1位を含む。）となった。これらに関連して、マネジメントとの対話など、会社への理解を深める機会が充実しているとの声や、経営トップも参加するラウンドテーブルはタイムリーで、内容も有益との声が寄せられた。IR 部門については、経営陣の考え方を理解しており同じ目線で伝えてくれるとの声や、詳細についても的確に調べて回答してくれるとの声があった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること。また、企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」は第3位となった。これに関連して、決算後に詳細な増減要因分析や台数データが提供されており有用との声や、説明会等での説明は十分であるとの声寄せられた。なお、二輪車市場・事業における定量面の開示の一層の充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は第2位となった。これに関連して、決算資料だけでなく、決算後取材用の資料も日英両言語で用意されている点を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「キャピタルアロケーションや資本政策に関する情報」が同得点第1位となった。また、「人的資本に関する情報」が同得点第2位に、「環境負荷低減に関する情報」が同得点第3位となった。これらに関連して、電動化戦略やキャピタルアロケーションを示し、また具体的なアップデートも行っているとの声が寄せられた。一方、事業間の資本配分の明確化を求める声があった。「ESG 関連のイベントを開催していること。また、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」は同得点第11位となり、平均得点率と同程度であった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第2位（昨年度第6位）となった。有益なイベントとして、イベント発表当日のラウンドテーブル、アジアツアー、技術説明会などを挙げる声があった。「納得性の高い中長期戦略を公表していること。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていること」は第5位となった。これに関連して、ビジネスアップデートで戦略変化がわかるとの声があった。一方、より多くの投資家が参加できる機会が増えるよう検討することを望む声があった。

第3位 住友ゴム工業（総合評価点 75.5 点〔昨年度比+1.9 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、自主的情報開示が第1位（81%）、経営陣の IR 姿勢等が第2位（82%）、ESG 関連が第4位（69%）、説明会等が第6位（70%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第7位（82%）となった。昨年度に比べ、説明会等を除く4分野において、得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第1位となり、「IR 部門の機能」も第2位となった。これらの結果、この分野においてトップと僅差の第2位となった。これらに関連して、経営トップの積極的な IR を評価する声や、経営トップがディスカッションに前向きであり企業価値向上を目指す姿勢が見られるとの声が寄せられた。また、経営陣との対話機会などの IR イベントは大変有益であるとの声もあった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること。また、企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」は第6位となった。これに関連して、説明会資料に定量情報が追加され一層充実したとの声や、説明会等での説明は十分であるとの声があった。なお、製品ミックスと数量の分解の開示を

望む声もあった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 7 位（昨年度同得点第 13 位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「環境負荷低減に関する情報」が同得点第 3 位となり、「キャピタルアロケーションや資本政策に関する情報」も同得点第 4 位となった。「ESG 関連のイベントを開催していること。また、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」（同得点第 8 位）、および「人的資本に関する情報」（第 12 位）は共に平均得点率と同程度であった。水素関連施設の見学会を評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「納得性の高い中長期戦略を公表していること。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていること」が最も高い評価となった。また、「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」も第 3 位となった。有益なイベントとして、2035 長期経営戦略説明会、マネジメントスモールミーティングを挙げる声があった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **横浜ゴム**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 74.0 点〔昨年度比+5.4 点、一昨年度比+9.3 点〕、第 4 位〔昨年度第 7 位、一昨年度第 11 位〕）

- ① 同社は、説明会等が同得点第 1 位（73%）、自主的情報開示が第 2 位（78%）、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（80%）、ESG 関連が第 8 位（68%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 13 位（78%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率が大きく改善し、総合評価点において 5.4 点のアップとなった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 3 位（昨年度第 6 位）となり、昨年度に比べ、得点率が改善した。これに関連して、経営トップがディスカッションに前向きであり、企業価値向上を目指す姿勢が見られるとの声寄せられた。また、取材への CFO の参加を評価する声（P1）もあった。「IR 部門の機能」も同得点第 3 位となった。これに関連して、データの依頼に対する迅速な対応や、メールでのフォローを評価する声あった。これらの結果、この分野において第 3 位（昨年度第 5 位）となった。
- ③ **説明会等**の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること。また、企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」が同得点第 1 位となった。これに関連して、説明会資料、補足資料の内容は詳細かつわかりやすいとの声があった。
- ④ **ESG 関連**においては、「ESG 関連のイベントを開催していること。また、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が第 3 位となった。これに関連して、ESG 説明会の開催を評価する声があった。「環境負荷低減に関する情報」および「人的資本に関する情報」は、共に平均得点率と同程度であった。
- ⑤ **自主的情報開示**の「納得性の高い中長期戦略を公表していること。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていること」が第 2 位となった。「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は同得点第 6 位（昨年度第 12 位）となり、昨年度に比べ、得点率が大きく改善した。有益なイベントとして、CEO・CFO スモールミーティングや旭川ウィンタータイヤ試乗イベント、北米事業スモールミーティングを挙げる声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2025年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
			評価項目2 (配点 25点)		評価項目1 (配点 15点)		評価項目1 (配点 5点)		評価項目4 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		
1	5108 ブリヂストン	76.2	19.7	4	10.4	7	4.5	1	26.9	1	14.7	4	1
2	7267 本田技研工業	76.1	20.6	1	10.8	3	4.3	2	25.1	2	15.3	3	2
3	5110 住友ゴム工業	75.5	20.5	2	10.5	6	4.1	7	24.3	4	16.1	1	4
4	5101 横浜ゴム	74.0	20.0	3	10.9	1	3.9	13	23.7	8	15.5	2	7
5	7203 トヨタ自動車	72.2	18.7	5	10.9	1	4.1	7	25.0	3	13.5	9	3
6	7202 いすゞ自動車	70.8	18.4	7	10.6	4	4.2	3	23.9	6	13.7	7	11
7	7270 SUBARU	69.7	18.4	7	10.3	8	4.2	3	23.1	11	13.7	7	6
8	7282 豊田合成	69.2	18.6	6	9.8	13	3.9	13	22.3	13	14.6	5	10
9	3116 トヨタ紡織	68.3	17.1	10	9.9	11	4.1	7	22.9	12	14.3	6	14
10	6902 デンソー	68.1	16.5	14	10.2	9	4.0	12	24.1	5	13.3	10	5
11	7269 スズキ	67.9	16.7	13	10.6	4	4.1	7	23.2	10	13.3	10	17
12	7259 アイシン	65.3	14.9	17	9.8	13	4.2	3	23.6	9	12.8	15	15
13	5105 TOYO TIRE	65.2	16.9	11	9.8	13	3.9	13	21.5	18	13.1	12	13
14	7261 マツダ	65.1	17.4	9	9.9	11	3.9	13	21.6	17	12.3	17	16
15	7272 ヤマハ発動機	65.0	14.9	17	9.4	17	4.2	3	23.8	7	12.7	16	8
16	7211 三菱自動車工業	63.7	16.9	11	10.1	10	4.1	7	19.6	20	13.0	13	12
17	7276 小糸製作所	62.7	14.5	19	9.6	16	3.7	17	22.0	14	12.9	14	18
18	7988 ニフコ	62.0	16.4	15	9.2	18	3.7	17	22.0	14	10.7	20	19
19	6923 スタンレー電気	59.9	15.0	16	9.2	18	3.5	21	21.1	19	11.1	19	
20	7201 日産自動車	58.3	12.7	20	8.6	20	3.6	20	21.8	16	11.6	18	9
21	6201 豊田自動織機	50.6	10.2	22	7.9	21	3.7	17	19.1	21	9.7	21	20
22	7205 日野自動車	47.8	11.2	21	7.9	21	3.4	22	18.8	22	6.5	22	21
	評価対象企業評価平均点	66.06	16.64		9.83		3.97		22.70		12.92		

2025年度の具体的評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

【評価期間：2024年7月～2025年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）	10
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（15点）	配点
・説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要な情報が得られますか。	15
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	5
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
4. ESGに関連する情報の開示（35点）	配点
①環境負荷低減に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。また、その進捗状況、成果が十分説明されていますか。	15
②キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針が示されていますか。	10
③ESG関連のイベントを開催していますか。また、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
④人的資本に関する情報（ダイバーシティや従業員エンゲージメントなど）、及び、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を定量的・積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか。	5
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（20点）	配点
①事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。〔過去1年間を目安に評価〕	10
②納得性の高い中長期戦略を公表していますか。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていますか。	10
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部 会 長	箱守 英治	大和証券
部会長代理	坂口 大陸	みずほ証券
	岩井 徹	SBI 証券
	木下 壽英	野村證券
	鈴木 衡大朗	ニッセイアセットマネジメント
	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（26名）

石本 渉	野村證券	高田 悟	ティー・アイ・タワリユ
石山 孝高	みずほ証券	高橋 侑也	丸三証券
磯部 智一	三菱 UFJ アセットマネジメント	田中 健司	アセットマネジメント One
岩井 徹	SBI 証券	田村 真一	極東証券経済研究所
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	寺師 正俊	モルガン・スタンレー MUFG 証券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	成瀬 伸弥	岡三証券
垣内 真司	モルガン・スタンレー MUFG 証券	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
木下 壽英	野村證券	箱守 英治	大和証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	馬場 永希也	シティグループ証券
小西 慶祐	QUICK	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
坂口 大陸	みずほ証券	牧 一統	SMBC 日興証券
島原 陸也	SOMPO アセットマネジメント	牟田 知倫	SOMPO アセットマネジメント
鈴木 衡大朗	ニッセイアセットマネジメント	吉田 有史	シティグループ証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。